

近畿地区鶏病技術研修会で研究成果を発表

～生酒粕の飼料利用～

鶏病技術研修会は、今年60周年を迎える鶏病研究会が開催する研修会で、養鶏関係者が家きんの疾病や飼養衛生管理に関する最新情報と技術を共有する場として毎年開催されています。

今年度の近畿地区鶏病技術研修会が、8月25日に奈良市で開催され、当センターから「肉用鶏へのタンパク質供給源としての生酒粕の可能性」と題し、研究成果を発表しました。参加者からは、普及を期待するという声や、生産物である鶏肉の調査、鶏の健康調査等への展開を希望する声が聞かれました。

当センターでは、今後も研究を継続し、現場の実情に合わせた研究成果の普及に取り組めます。



発表する研究員

畜産センター